

解決志向の会議『ブリーフミーティング』の紹介

リソース（資源）を生かし、今日のゴール（次なる一手）に向けて、30分でアプローチしていく会議です。資料は一切使いません。個人が記録もとりません。「カタリスト（変化を起こす人）」という進行役の進行のもと、ホワイトボードに書き込まれる情報を見ながら、自分ごととして「自我関与」していくことで、参加者全員が一つの頭脳となって次なる一手を探っていきます。

現在、このような効率よく効果的な会議方法が、多数の学校で広がっています。

「解決志向」で教師が変わる！

「解決志向」の解決とは、「問題解決」ではなく「新しく何かが構築されること」です。原因を追究しすぎないで、「解決の構築」で「よりよき未来の状態を手に入れること」をめざします。

「なぜうまくいかないか」から、「どうしたらうまくいくか」への考え方の転換をするためには、「うまくいっている状態では、どのようなことが起きているか」について想像してみましょう。

「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」エリック・バーン

ブリーフミーティング誕生ヒストリー



日本教育カウンセリング学会山形大会の佐藤節子先生（山形大学客員教授）の研修会「ホワイトボード教育相談」に触発された、鹿嶋真弓先生（立正大学教授）と吉本恭子先生（城西中学校長）が、TILA 教育研究所主催の研修会や現場で実践する過程で、ブリーフセラピーの理論をもとに汎用型の会議ツールとして改変したものです。

★解決志向の3つの哲学★

- ルール1 ・うまくいっているならば、変えようとしな
- ルール2 ・一度でもうまくいったなら、またそれをしよう
- ルール3 ・うまくいかないならば、何か違うことをしよう

<ブリーフミーティングの流れ>

ルール確認（解決志向・守秘義務） / 時間設定（30分）

事例報告（5分）・・・一番困っていることから話す

リソース探しのための質問（10分）・・・具体的な行動レベルでイメージ

今日のゴールの設定・・・ブリーフミーティングの山場

解決のための対応策・・・質より量！自由奔放意見大歓迎！

決定・・・自己決定が行動の原動力に

撮影（記録）

原因追究をしすぎず
具体的アイデアを！



★「ブリーフミーティング」と従来の会議との違い

	今までの会議	ブリーフミーティング
時間	長時間かかることも	わずか30分
準備	会議までに準備が必要だった	書類作成の必要なし
事例報告	報告にも長時間を要しタイムロス	困っていることを5分間で話す
解決のための対応策	出てこないから絞り込めず 原因追究で終わりがち	たくさん出てくる！だから選べる！ 解決志向
ゴール	抽象的であいまいになりがち 例) クラスになじんで楽しんでほしい 例) 笑顔が増えてほしい	具体的で数値化されている 例) 算数で15分集中して勉強できる 例) 週に2回、母親と登校できる
途中参加者への対応	これまでの説明が必要	ホワイトボードを見れば経過が分かる
会議の記録	人によって記録内容が違う	デジカメで撮って同じ記録を共有



実践の輪が広がっています！



★ 教育研究所3階「資料室」にある「解決志向」関係の書籍のご紹介 ★

※貸出期間2週間！月～金 9:00～17:00 ぜひご活用を！

『30分でスッキリ！ブリーフミーティング』 鹿嶋真弓・石黒康夫 編著

『ポジティブ学級に変える！解決志向アプローチ入門』 岩田将英 著

『不登校・ひきこもりに効くブリーフセラピー』 坂本真佐哉・黒沢幸子 編著

『ワークシートでブリーフセラピー／学校ですぐ使える解決志向&外在化の発想と技法』 黒沢幸子 著